

Sovereign AI Reference Architecture
説明責任・法令遵守・経済合理性を前提とした
主権AI (Sovereign AI) 基盤のための
レガシー継承型アーキテクチャおよび文明OS統合設計図
— 統合鳥瞰図 —

	過去	現在	未来
思想・原理レイヤ (Why)	<p>文明史・問題意識 (過去)</p> <p>長年のIT進化の結果、システムは高度化した一方で、説明不能・属人化・ブラックボックス化が進行した。</p>	<p>基本原理・設計思想 (現在)</p> <p>AIとデータ基盤は、説明責任・主権・再現性を満たす「制度と一体の設計思想」を前提とする必要がある。</p>	<p>文明OSビジョン (未来)</p> <p>技術・制度・言語を統合した文明OSにより、国家と市民が長期的に自律可能なAI基盤を構築する。</p>
制度・経済・法務 レイヤ (Rule / Money)	<p>既存制度・制約 (過去)</p> <p>現行制度はレガシーシステム前提で構築されており、責任分界や調達・契約がAI時代に適合していない。</p>	<p>制度統合コア (現在・中核)</p> <p>AI推進法・内部統制・監査・契約を統合し、説明可能性を制度的に担保する中核設計領域。</p>	<p>経済循環・国家戦略 (未来)</p> <p>AIを費用ではなく資産として扱い、国内価値循環と国際競争力を同時に実現する経済構造を形成する。</p>
技術・実装レイヤ (How)	<p>レガシー現実 (過去)</p> <p>停止できない基幹系と非正規化データが、AI活用と業務高度化の最大の制約となっている。</p>	<p>AI実装基盤 (現在)</p> <p>正規化RDBを核にRAGと監査ログを組み合わせ、オンプレミス／ハイブリッドで実装可能なAI基盤を構築する。</p>	<p>拡張・進化 (未来)</p> <p>AIエージェントや国産LLMを段階的に接続し、制度と整合した形で自律的進化を可能にする。</p>